

精華町教育委員会会議録

平成27年（第9回）

1 開 会 平成27年8月31日(月) 午前10時00分
閉 会 平成27年8月31日(月) 午前11時55分

2 出席委員 伊藤委員長 中谷委員 細川委員
太田教育長 (欠席委員: 蓑毛委員)

3 出席事務局職員
岩橋教育部長 竹島学校教育課長
仲村生涯学習課長 北澤総括指導主事
山崎学校教育課係長

4 傍聴者 なし

5 議事の概要

(1) 開会

委員長から第9回教育委員会の開会を宣言。

(2) 前回会議録について

教育部長から平成27年第8回教育委員会の会議録について説明。

【意見等】

・特になし。

【採 決】

・全員承認。

(3) 議決事項

1 議案第13号 平成28年度以降に精華町立中学校で使用する教科
用図書採択について

教育部長 **【提案説明】**

本議案については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づいて開催された山城教科用図書採択地区協議会に精華町教育委員会から委員として出

席していた太田教育長より協議結果の概要、同会議に同席していた北澤総括指導主事から、採択協議における教科ごとのポイントについて説明する。

太田教育長

今回採択を予定している教科用図書は、平成28年度から31年度まで山城採択地区内で使用するものである。「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」により、共同採択地区として設定されている山城地方の公立小・中学校は同一の教科書を採択しなければならないことから、7月24日開催の山城教科用図書採択地区協議会において、京都府教育委員会から示された次の採択基準と基本観点をもとに協議を行った。

採択基準の1つ目は、学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されているか、またこの基本観点として全体として特徴や創意工夫がされているかという点。

2つ目は内容や構成が学習指導を進める上で適切かどうかであり、この基本的な観点として5点にわたっている。5点のうちの1点目は、基礎的、基本的な内容の定着を図るための配慮がなされているか。2点目は、思考力、判断力、表現力などの育成を図るための配慮がなされているか。3点目は、生徒が自主的に学習に取り組むことができる配慮がなされているか。4点目は、学習指導要領に示していない内容の取り扱いについて配慮がなされているか。5点目は、他の教科との関連が図られているかである。

3つ目の採択基準は、使用上の便宜の工夫がされているかどうかで、この基本的な観点としては、表記表現に工夫がされているということが重視されている。

これらの京都府教育委員会の採択基準を参酌し、各教科別調査員会において調査研究が行われた。調査研究は、申請のあった延べ66冊の教科書について行われ、その結果が「山城教科用図書採択地区協議会 教科用図書調査報告書」としてまとめられた。

この報告書に基づき、代表調査員から教科ごとに報告を受け、採択地区協議会の委員20名により協議を行った。協議に当たっては、先ほどの採択基準に加え、次の4点を加味して検討を行った。

1点目は、山城地区の学力の状況として府の平均を下回っているという実態があることから、特に下位層の生徒が取り組める工夫、発展的な学習への手だて、生徒が主体的に学習に取り組むアクティブラーニングへの対応があるかなど、学力向上の視点。

2点目は、経済格差や貧困への対応の課題がある中で、どの生徒も家庭学習や自主学習がしやすいかどうかという、生徒の興味・関心を高める視点。

3点目は、管内教員の若年化という現状を踏まえ、授業の質を担保する上で、若手教員でも授業で使いやすいかどうかという視点。

4点目は、教育を取り巻く多様な価値観がある中で、公教育として多種多様な意見がより反映されているか、公平性が担保されているかといった視点。

これらの4点とともに、法定展示や各巡回展示の中で頂いた多くの意見も参考に協議を進めた。

協議の結果については以下のとおり。選定結果のポイントについては、総括指導主事から説明を行う。

教科		発行者	教科	発行者	
国語	国語	東京書籍	音楽	一般	教育芸術社
	書写	光村図書		器楽合奏	教育芸術社
社会	地理	帝国書院	美術		日本文教出版
	地 図	帝国書院	保健体育		東京書籍
	歴史	東京書籍	技術		開隆堂
	公民	東京書籍	家庭		開隆堂
数 学		大日本図書	英語		東京書籍
理 科		啓林館	—		—

総括指導主事

【国語】：東京書籍

主なポイントとして、本編、基礎編、資料編という3部構成になっており、本編で学習したことを基礎編で定着させることができるように工夫されている。さらに応用として資料編が用意されており、発展的な学習に生かせるようになっている。また、話す、聞く、書くにページを割いており、大変分かりやすく、構成が工夫されている。学力に課題のある生徒にも読みやすいように振り仮名が適切に使用されている。

太田教育長

東京書籍の場合は教科書構成が本編と基礎編と資料編という3部構成がとられている。その中で、本編で学んだことを基礎編や資料編で定着されるといったことで、教科書の中にさまざまな教材の配置をして、わかりやすく丁寧につくられている印象を持った。また、文章教材と関連させながら、言語についての基礎的な知識を広げるような工夫が充実していた。さらに学力に課題のある生徒への配慮として、例えば振り仮名の使用について「少年の日の思い出」というヘルマン・ヘッセの作品は、どの出版社にも記載があるので比較したところ、ただ振り仮名を多用するのではなく、必要な箇所に振られているという点についても優れていた。また、教材がわかりやすいものから発展的なものへと配列されており、現場では授業の流れが作りやすく教えやすい工夫がなされている。このような点から東京書籍が良いと判断した。

総括指導主事

【書写】：光村図書

基礎編、学習編、資料編という3部構成で相互に関連しながら学習できるように工夫されている。特に基礎編において、大変丁寧にわかりやすく写真などを使用している。資料編は、手紙の書き方や送り状、また願書、原稿、のし袋など、日常的に使える中身の資料が充実している。書き方や筆圧については、生徒にイメージさせるのは難

しいところを図解により大変わかりやすく工夫されている。また、中学生の見本として適切な美しい文字が使われている。これらの点が他社と比較して優れていた。

太田教育長

パソコンが普及し、実際に自分で字を書くという機会は減っている。その中で書写に対しての基本的な事項を学ぶとか、あるいは書写のよさの認識をすること、さらには日常生活にもっと生かしていくということは大事だと教科書を見て改めて感じた。光村図書は教科書構成が基礎編と資料編から構成されており、書くときの姿勢、用具の使い方、筆遣い等の説明も小学校との関連に留意しながら基礎編でしっかりと取り扱っている。また筆の運び方、流し方、筆圧など、どこの出版社も取り上げているが、特に光村図書は丁寧であった。さらに行書の場合にも折り込み方式を取り入れ、詳しい説明を行うなど丁寧な工夫がなされており、生徒が学習しやすい配慮がされていた。活用という点では、手紙の形式やレポートの実践、書写辞典といったものが資料編で充実しており、書写が日常生活に活用できるような工夫がなされていた。

総括指導主事

【地理】：帝国書院

図やグラフの読み取りなどの技能についてのページ数が最も多く、地図帳とリンクさせながら地図、グラフ、各種資料の活用の仕方について詳しく説明をしている。各章の終わりには、「学習を振り返ろう」を設け、その地域で学習したことを文章化したり説明したりする言語活動も配慮している。また、独自取材を丁寧にしており、写真も自社で撮影した写真を多く用い、現地の人の声を取材した声など、独創性のある内容になっている。重要語句が出てきたページの中に解説を入れ、場合によっては図を入れて詳しく説明をしている。教科書の後ろには、辞書のように調べて学習できるように工夫されている。未来を考える材料ということで、共生、環境、防災という3つのテーマに絞って、本文の内容をさらに深めて自

分で考えるように方向付けをしている。

伊藤委員長

帝国書院は、地図やグラフ読み取りが大変しやすい内容になっている。地図帳とうまくリンクさせながら、地図は地図の特徴、教科書は教科書の特徴をうまく整理されており、若手教員が授業の中で扱っていく際に、地図で判断するところと教科書で指導していくところの区別がついているので、扱いやすいと感じた。

総括指導主事

【地図】：帝国書院

地図帳として独自に活用できることを追求しており、視点多様で、その地域を見ていくときに必要な地図や資料を多面的に取り上げようとしている。特に拡大図等の地図や各資料図が非常に豊富であり、地図帳として活用することに特化している。また、基礎的、基本的な内容の定着を図るために地図の内容が多様で、その地域の特徴を分布図や植生表現、また、イラストを付けた鳥瞰図など、多面的に把握できるような工夫がなされている。帝国書院における使用上の便宜については、世界の一般図に同緯度、同縮尺の日本図が赤で示されており、緯度や大きさについて、日本を標準として比べられるように配慮されている。

伊藤委員長

地図帳については、光を当てたときにハレーションがきつくカラフルな色合いが嫌みになるものもあるが、帝国書院はどの角度から光を当てても、目が疲れるということはほとんどなく大変丁寧に作られていた。また、地図を読み取る学習活動では、自発的な学習意欲を引き出すような工夫がされていた。そういう面でも帝国は一步リードしていると私は判断した。

総括指導主事

【歴史】：東京書籍

本文、資料ともに詳細で、生徒は時代をイメージしやすく、教師は様々な手法で掲載されている資料を活用することができる。また、見開きの最後に必ず確認という1問を入れ、場面に応じて出題パターンを変えており、手

法が多岐にわたっている。さらに具体的な問いから概念的な問いへと変化させており、発達段階を考慮して編集されている。さらに自主的に学習するときの手助けとして巻末に用語解説がある。歴史の学習においては通史として捉えることが大切であり、授業では年表の取り扱いが重要になってくる。そこで、東京書籍は小学校との関連に配慮され、章の最初と最後には小学校での既習内容を示した年表が右側にあり、左側には中学校で習った年表を載せている。小学校と中学校の関連を図りながら学習を進めることができ、生徒にとっても教師にとっても大変使いやすいと考えられる。また、公平という視点と、生徒たちに学力をつけられる教科書、教師が使いやすいのはどれかなどの観点で確認したところ、東京書籍が優れていると判断され、決定された。

伊藤委員長 東京書籍は、地元の事象を扱った題材が多数配列されていること、またインターネットを活用して家庭学習できる配慮されていること、更に公平性と言う視点や実際に現場で教える先生方にとって使いやすい教科書として考えた場合、東京書籍が一步リードしていた。

太田教育長 同和問題などの人権問題は山城地方において非常に重要なテーマであり、その視点から見ると、どこの出版社もこの問題についてはしっかり取り上げている。近現代史の中では解放令の部分と、水平社の記述があるが、特に東京書籍は解放令から水平社の内容を2ページ割いて記述しており丁寧であった。また、全ての子供に教育をというテーマで、留岡幸助や石井十次という、児童福祉に関わる人物を詳しく記述している。同和問題の観点、それから今日の貧困問題や児童虐待の問題に対し、歴史の視点で向き合っている配慮を感じた。

総括指導主事 **【公民】**：東京書籍

基礎的、基本的な内容の定着を図るための丁寧な工夫がなされている。各章末では、「この章の学習を確認しよ

う」に課題を設定し、学習内容の定着を図る工夫もなされている。さらに学習を深めるため、コラムや個人、グループで行う作業、話し合い活動などが多岐にわたって掲載されており、教員が取捨選択しながら学習が進められ、大変使いやすくなっている。また、身近な京都に関する記述が他社より豊富であり、生徒の興味、関心を高める工夫がなされている。

伊藤委員長

公民的分野については、どの教科書も見開きの2ページで1時間分の設定にしている。教える側、受けとめる生徒の立場から考えると、ポイントを絞ったほうがまとめやすい。1時間の学習の中で最終的に何を狙うのかという整理の仕方、まとめの方向性を的確に示しているのは東京書籍が一番だと判断した。また、写真、イラスト、図版の配置でも、東京書籍が抜けている。特に公民分野については世界との共通性の図版とかイラストとか写真が魅力的に感じる。自分が教える立場に立ったら使いたいと思えた。

総括指導主事

【数学】：大日本図書

理由として1つ目は、基礎・基本の定着においてフィードバックしながら練習ができる問題を節ごとに設けてあり、各章に「挑戦しよう」「見出そう」「利用しよう」「伝えよう」の4段階に分けて数学的な学習に対応した問題を設定しており、穴埋め形式を取り入れ、自らが考えられる仕掛けが多用されている点。2つ目は、1時間の授業の「学習の目当て」が分かりやすく明示されており、生徒も教師も的確に把握して取り組める点。3つ目は、学力を定着させるための工夫として、各単元の節の終了時に基本問題があり、基本を確認して定着を図ることができる工夫がなされている点である。

中谷委員

数学は系統性が重要であり、学力をしっかりと身につけるために、生徒が受けやすく身につけやすく使いやすい、かつ教師が教えやすいという点を考えたならば大日本図書だと感じた。

特徴として1つ目は、大日本図書は全学年、見開き2ページで1時間を勉強するというレイアウトが非常にコンパクトでわかりやすい。

2つ目は、受け身の授業から、生徒が自ら学ぶ授業という視点で見ると、教科書に書き込んでいくスタイルを採用しており小学校から実施しているので違和感なく、書き込んで自分の考えをまとめていくという力にもなる。

3つ目は、スモールステップを重視しており、基礎基本の定着にも効果的な構成となっている。平成27年度の京都府の学力診断テストの結果からも2極化の傾向が見られるが、それを克服するためにも有効であると感じた。

3点目に、色分けなどによる視覚的効果で生徒が学ぶという点において非常にわかりやすく、教師にとっては教えやすい教科書になっている。

総括指導主事

【理科】：啓林館

他社と比較して特徴的な部分として、関西中心の豊富な写真が掲載され、資料数としても十分な量があり、生徒の興味、関心を高めることができるように工夫がされている。また、基礎基本の定着において、別冊の「マイノート」というものが合冊の形についており、各社とも章末、巻末に問題を載せているが、これを取りまとめて一冊にして、教科書とは別に扱えるように工夫されている。その中に基本的な事項をチェックする部分、ワークブックとして活用できる部分、それから問題集として基礎的な問題の部分、発展的な問題の部分にまとまっており、本編のほうは資料集のような役割になっている。そして別冊が問題集のような役割を同時に持っている。授業の工夫の仕方次第で、学力に課題のある生徒への対応だけでなく発展的な学習を中心にするような生徒へも活用できるフレキシブルな形になっている。

中谷委員

1つ目に、地元教材（関西）という視点で写真、図など

を調べると啓林館は他の出版社より圧倒的に多くとても親しみが湧き、自然科学に対しての興味、関心が高められる一つの要因になる。

2つ目は、基礎、基本の定着を図ることで大事なことだが、必ず単元の初めに、中1では必ず小学校の振り返りが記載されている。これから入る単元の前段階をきちんとおさえておけば、その既習事項に基づいて予想や仮説を立てることができ、より能動的に学習に入ることができる。

3つ目は、科学における目に見えないものをどのように想像させていくのかという視点で、例えば物質が水に溶けていくという水溶液の問題では、粒子モデルと写真がはっきりとわかりやすくイメージされ、より想像力を高めるような工夫がなされていた。

4つ目に、実験、観察の面で検討したところ、実験例が複数記載されている部分もあり子どもたちが、より多角的・多面的に確かめていくことができると同時に、子供たちは討論がしやすくなる。なぜ、どうなのだろうといった話し合いの活動が理科においても展開しやすくなり、真理を追求していく醍醐味が生まれる。啓林館はそのように、実験、観察においても工夫がされていた。

総括指導主事

【音楽】一般・器楽：教育芸術社

一般について、学習の目標達成のために工夫されているのは、教材ごとに共通事項をアイコンで示し、単元ごとに学習ポイントを音楽マップで表記されているところである。学習内容や構成が学習指導上適切であるかどうかについては「ここがわかればGrade Up!」、「My melody」、「Let's Create!」で、習熟と関心に応じて自学できる工夫がなされ、「音楽の約束」によるサポートができるようになっている。発展的な学習では、希望・勇気・思いやりの心・強い意思・命の大切さなど、他教科・領域との関連に配慮されている。表記、表現の

工夫につきましては、我が国郷土を愛する心の育成、日本の伝統文化とのかかわりに特に配慮した記載となっている。「ふるさと」では、学年に応じたアレンジと合唱の人数に応じた編集がなされている。我が国郷土を愛する心の育成、道徳教育へのアプローチやグループ活動を取り入れた主体的な協働が見える記載となっている。

器楽については、目次と見出しの色分け、アルトリコーダーへの移行に配慮した配置となり、アーティキュレーション、テクスチュア、パートの役割、曲の構成で段階的な手だてを導く構成がとられている。さらに日本の伝統音楽で姿勢と礼儀に触れるなど、音楽教室やサークルの活動のような技術の向上だけでなく、学校音楽として大切な我が国や郷土の音楽のよさを味わう一連の活動に適切に位置づけられており、学校の実態、保有楽器の種類に合わせたリコーダー、箏、太鼓などの取り扱いができるように工夫がされている。

細川委員

音楽に関しては2社の比較になった。教育出版は斬新で写真や話題に関して最近の演奏家、曲に関しても現代調のラップ音楽などを取り入れて、現代的な方向を目指しているというのが伺える。教育芸術社は、各地の伝統的な祭りの風景や、世界各地の民俗音楽が紹介されて曲の選曲もオーソドックスな曲を選曲している印象を受けた。

教育芸術社は学校の規模に多様化に対応し教師が指導しやすいような工夫がなされていること、楽器の取り扱いに関して、洋楽器や和楽器など様々な照会が行われていた。楽譜に関しても、西洋の楽譜ではあらかた抑揚をあらわすのに、日本はこういう楽譜を使って伝統芸能が行われているという表現が随所見え、これから音楽に関して様々な知識を身に付けて行く中学生にとっては興味深いものになると感じた。総合的に考えると、教育芸術社の選択でよい。

総括指導主事

【美術】：日本文教出版

学習の目標達成のために工夫されていることは、1年と2・3年の上及び下の3冊で構成されており、各巻のコンセプトを明確にして、発達に応じた題材の配列とか表現技法の広がりを取り上げて発展性を出しているところだ。次に、学習内容や構成が学習指導上適切であるかどうかについては、各題材の学びの狙いを4つの評価観点をもとに表示している。それによって学習のポイントがわかりやすく、作品の構想を狙いに沿って深められるように工夫がなされている。鑑賞ページが見開きで折り込みにされるなど、作品の迫力や臨場感を味わうことが意識して掲載されている。最後に、表記、表現の工夫については、他社に比べて教科書のサイズが少し横にワイドになっており、ワイドな部分の紙面を有効に活用できている。3冊の中の2・3年の上のなかには浮世絵の題材を取り扱っているところがある。ここで使われている紙の質が和紙的な部分で印刷がされている。

教育部長

開隆堂と日本文教出版について、どちらも制作の楽しさ、生徒による制作の一場面を載せることなどによって親しみやすさがうかがえる。そのうち日本文教出版は、A4サイズより少し大きい紙面や、それから水墨画、浮世絵の場面で和紙の特性を利用するなど、効果的に作品が掲載されていると認められた。（蓑毛委員は欠席のためコメントを教育部長が報告）

総括指導主事

【保健体育】：東京書籍

学習しやすい工夫、指導しやすい工夫として、「保健編」「体育編」がそれぞれ学年ごとに組み合わせられており、3年間の学習の見通しが持てるように構成されている。生徒が自主的に取り組めるように配慮されている点として、保護者の皆様へという文章が載せられており、家庭での学習の協力を呼びかけている点がある。インターネットも普及しているので、家庭で興味のあるところを各自で学習がしやすいように工夫がされている。

伊藤委員長

東京書籍は各学年の分野それぞれに一貫した整理がされており、3年間の組み立てがしっかり行われている教科書になっている。若い世代の先生にとっても、一番扱いやすいものといえる。

さらに、2つ特徴がある。1つは、色覚に対するバリアフリー、もう1つは、今年の6月に改正された道路交通法から特に自転車の扱い方について10種類ほどのパターンを図式ではっきりと示され自転車の正しい乗り方などの点についてはっきりと他社とは違う感覚が目立った。

道路交通法の自転車の点、色覚バリアフリーに対する細かな配慮、そして何より3年間の見通しを持って一貫性のある保健体育の授業を出来るという点において優れていた。

総括指導主事

【技術家庭】：開隆堂

技術分野では、学習の目標達成のために工夫されていることとして、学習指導要領に示されているガイダンス機能が、3年間の学習を見通した状況を踏まえ意欲的に学習ができるように示されており、学習目標もきちんと明示され、生徒が自ら課題を見つけ解決できるような工夫がある。次に、学習内容や構成が学習指導上適切であるかどうかについては、基礎的・基本的な作業に関して、材料ごとに非常に要点とポイントを押さえて記述しており、生徒にとってわかりやすく丁寧にまとめている。実験、実習等で話し合い活動も「話し合ってみよう」というところを作って授業の中で話し合い活動をしっかりさせようという工夫が上げられる。最後に、表記・表現の工夫については、写真・挿絵・資料などが多く使われており、文字と写真のバランスがよく、特にポイントを絞ってわかりやすくユニバーサルデザインの考え方にも配慮されている。

家庭分野における学習内容や構成が指導上適切であるか

どうかについては、学習のまとめと学習の振り返りの2回で内容の定着が図られている。基礎技能についても絵や写真をうまく使ってわかりやすく説明している。また、教科書を見て自宅で体験、実践できる参考実習例、そして課題解決的な教材を生活の課題と実践で掲載するなど、それぞれ工夫がされている。

中谷委員

技術分野は基礎的・基本的な知識の工夫や、実験・実習における生徒の興味を引くような中身、情報モラルの最近の事情を鑑みながら取り上げている点、など各社とも非常に良かった。技術は週1回の授業でいかにポイントを押さえて授業をするかがとても大事だが、その点において開隆堂はうまくまとめてあり、ポイントがしっかり押さえられている、この点に尽きる。

技術や家庭は写真や図が多く出てくるが情報量が豊富と言う良い面と、多過ぎて整理しにくい点がある。少ない授業時間の中でポイントを絞った中身や資料でなければ定着しにくい。資料が絞られている点などを考えれば、開隆堂の教科書はよい。また、実習のページが材料ごとにまとめられているので非常にわかりやすい配列になっている。

教育部長

開隆堂は、地域食材と食文化の中で日本の伝統的な食文化として和食の紹介がどの教科書よりも多くページが割かれていた。特に和食は旬の食材、旬の素材を取り入れたものが多く、その季節感や日本の伝統的行事に欠かせない教材であるというふうに感じとれた。また、調理実習例も実践で使用できる内容が多くわかりやすかった。（叢毛委員は欠席のためコメントを教育部長が報告）

総括指導主事

【英語】：東京書籍

目標達成のために工夫されていることは、各社とも大きな差異はないが、学習内容や構成が学習指導上適切であるかどうかについては、東京書籍が小学校との接続や前年度との学習の振り返りとして工夫がなされている。具

体的には、1年生ではユニットの前に「Hi! English」やユニット0という形で中学校への接続を図っている。また、2・3年生ではユニットの1に入る前にユニット0という形で前年度の復習をする内容を設定している。また、3年間を見通した学習内容については、受動態の学習を3年生に配列し、量的、質的にバランスがとられている。話す力、つまり自己表現力と文法事項の取り扱いの配列では、3年間のトータルで考えた場合は東京書籍が最も適切に配列されている。

細川委員

「NEW HORIZON」は、バランスがよい。他の出版社には、少し簡単な内容が書かれているところ、文法的に難しい箇所など特色があるが、「NEW HORIZON」は中間的にバランスがとれている。また、1年生の導入に関して、進み方に少しゆとりを持たせ生徒が受け入れ易いよう工夫されている。

多くの先生方の意見として、2年生で難しい活用を学び、量的にも多いというような話が以前からあったが、「NEW HORIZON」は一部を3年生にずらすことで受動態と過去分詞、現在分詞をまとめ指導しやすく、生徒たちにとっても非常に受け入れやすくなったところを評価したい。

今回教科書を見ながら感じたのは、登場人物が様々な国籍を扱われていたり、アレルギーのある方の話や、障がいのある方の話など、読み物としてもすごく生徒たちの興味を引くような内容が取り上げられていた。

指導される上でも細かいポイントが詳細に記されており本当に親切丁寧な教科書づくりをされていると感じた。

【採決】

全員挙手により原案どおり決定

教育部長 1 議会名称と内容について

9月から「平成27年度定例会9月会議」と呼称することになった。会議の期間について、開会が9月4日、採決が9月30日となっている。一般質問では教育関係の質問が5名、延べ7件の質問、うち2件は町長の出馬表明に関するものである。

総括指導主事 1 生徒指導報告について

7月の小学校及び中学校の状況について報告をさせていただく。

小学校については特に生徒指導についての報告はなかった。不登校について、7月は13名で、前月16名と比較すると減少した。

中学校については、生徒指導件数としては6件。不登校については27名で、前月の33名に対し若干減少している。夏季休業日期间中に各学校、町教職員研修会でも不登校をテーマに研修会を行い、それをもとに小・中の部会を開くなど、様々な形で取り組みを進めている。

総括指導主事 2 いじめ調査集計表（1学期）について

第1段階の認知件数が235件、第2段階はゼロで、全て解消済みとの報告を受けている。

中学校は第1段階の認知件数は51件、第2段階、第3段階はゼロであった。

総括指導主事 3 全国学力・学習状況調査について

小学校については、全国との比較で見ると、精華町は国語A、B、算数A、B、理科、全て全国を上回っている。また、府平均も上回っているという結果になった。中学校は国語A、B、数学A、Bまで、全国を上回っている。理科については、新聞紙上で京都府が全国の53点を下回ったとの報道であるが、精華町は全国、府平均をいずれも上回っている。

本町の特徴的なところで、理科の質問紙から、「将来、

理科の授業が社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に対し、町内全ての中学校で全国、府平均よりも多く、特に「将来、理科や科学技術に関する職業につきたいと思いますか」という質問に対して、全国 9.2%、府 9% に対し、精華町では 18.8% という非常に高い値が出ている。理科や科学技術に興味を持っている子どもが、町内中学 3 年生に多いという結果が出た。

生涯学習課長 1 あいさつ運動について

各学校においては若干日がずれるところもあるが、9月1日から9月3日までの3日間、実施する予定をしている。実施場所は、駅及び駅周辺、学校周辺で実施である。

生涯学習課長 2 町民体育大会について

9月13日、日曜日に東光小学校で実施する。地域で組織できないという自治会も出てきているので、参加自治会が30地区と減少している。昨年と同様の競技がほとんどだが、一部新たな種目を実施する予定をしている。

生涯学習課長 3 文化財の展示について

8月の26日から30日の間、交流ホールにおいて、精華町と戦争と言うテーマから当時の小学生であった精華町在住の藤田芳津さんという方の絵日記の展示を中心に開催した。2日目は、御本人からその当時の様子や、自分が当時どういう思いでこの絵日記を描いたかというような、内容の講演を座談会形式で実施した。

生涯学習課長 4 防犯パトロールの実施について

青少年健全育成協議会が中心となって、7月に3回、8月3回、深夜パトロール1回実施した。また寝屋川の事件を受けて、8月30日早朝5時に役員及び事務局で町内全域防犯パトロールを行った。

学校教育課長 1 精華中学校校舎改築等工事、鍵の引き渡し式について

8月1日から新しい校舎運用を開始している。生徒たちもクラブ活動等で教室を利用している。9月1日からは新しい教室で授業が始まることになる。工事は現在、解体工事、体育館の改修等に着手しており、今後、プールの改築工事、外構等の工事を行い、来年の2月末完成の予定。授業が新校舎で始まるに当たり、設置者の木村町長から、学校長に鍵の引き渡し式を行う予定。

学校教育課長 2 体育大会、全国交通安全運動について

9月は、各小・中学校の体育大会が予定されている。中学校は9月19日の土曜日、小学校は9月26日の土曜日。

9月21日から9月30日まで秋の全国交通安全運動が行われる。秋の連休中ということで、町の啓発活動については、連休の前後に駅前などで啓発活動が行われる予定。時間があればその啓発活動にも参加いただきたい。

(5) 後援関係

7月から8月に受け付けた教育委員会後援事業の報告は、総数5件、学校教育課関係は1件、生涯学習課関係が4件、うち社会教育係関係が3件、図書係は1件、体育係関係は0件。

(6) 9月の行事予定

(7) 閉会

委員長が第9回教育委員会の閉会を宣言。